

グループホーム 本天沼		主題	個別ケアを推進する「気づきノート」の活用
アンケート調査		副題	
研究期間	6ヶ月	事業所	グループホーム本天沼

発表者：山下 幸久	
共同研究者：一木 誠・伊藤美華	
TEL：03-3395-6333	E-mail：
FAX：03-3395-6331	URL：

今回発表の事業所 やサービスの紹介	東京都杉並区からの委託事業で、認知症対応型共同生活介護を区営住宅の一階部分において9人・1ユニットを運営しています。入居者様それぞれのライフスタイルに合わせ、その人らしさを大切に生活を送っている場所です。
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

《研究前の状況と課題》

職員が利用者の皆さんと深く関わることでその思いや希望を知り、より質の高いケアに生かす方法を模索していた。そこで昨年四月からひとつの取り組みを始めていた。それは職員が利用者一名を担当し関わり、その内容を一人一冊用意した担当制ノートに記録・共有するというものだった。しかしその方法も様々な問題があり、なかなか継続が難しかった。そこで九月の段階で見直しをし、九冊から一冊のノートにし、その一冊に全員のことを記録する「気づきノート」を導入することとした。

《研究の目標と期待する効果》

研究の目標

導入された「気づきノート」は利用者の皆さんの生活をいきいきとしたものとし、よりよいケアプランにつなげることができたのかを検証する。その検証において、最近認知症が進んだと思われるある利用者さん（Sさん）にスポットを当て、実践的研究から気づきノート活用の有用性を検証する。

期待する成果

この気づきノートを使用することによってグループホーム本天沼のスタッフが同じ方向性を向いてケアできるように情報収集を行い、整理して、さらにそこから得られた様々な事象について検討・確認をしてGHのケアプランや家族との連携等にかせるようにしていける一つのツール(道具)にしていきたい。

今後、グループホームには9人の生活があるため9人・9通りのケア・生活の質を確保できるように努力していきたい。

《具体的な取り組みの内容》

気づきノートを活用する上で以下の検証をおこなった。

気づきノートの活用で利用者のみなさんへの理解が深まったのか。

深まったのならそこからよりよいケアにつなげることができたのか。

ノートの導入は有益だったのか、職員に意識の変化はあったのか。

職員には意識アンケートを実施し、気づきノート導入について意見を聞いた。

また、気づきノートの書きこみから、Sさんの心身の変化をいち早く察知し、どのようなアプローチがいいかを話し合い、取り組み、またその結果を話し合い次の取り組みへ生かした。

このように、気づきノートから見えてきた情報を生かしながら、Sさんの心を慰め、その思いにより添うようにと取り組んだ内容を紹介する。

《取り組みの結果と評価と課題》

Sさんへの実践的取り組み研究によって、この「気づきノート」の有用性が明確にされた。

職員が気づきノートに記入することを日常化することで、利用者の皆さんの言動を注意深く観察する能力が向上した。

また何気ない言動からもその心を察知するような意識が働くようになった。

また、気づきノートの書きこみによって情報から情報というリレーのバトンをうまく職員に渡すことによってよりよいケア実践につなげられる体験をした。

今後の課題として、継続して記録をしていけるように、常にノートを見直し、続けていけるシステム確立に向けて検討していく必要がある。

《提案と発信》

この気づきノートを使い、グループホームでの個別ケアを推進していくツールとして確立していきたい。

【メモ欄】